

○自ら学び自ら考える子「なるほど」 ○お互いを認め合う子「いいね」 ○心身ともに元気な子「しっかり」

北大和小だより 12月号

令和4年11月28日
大和市立北大和小学校
〒242-0001 大和市下鶴間685
ホームページ <http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/s-kita/>



「育成することの大切さと難しさ」

11月下旬になり世の中はサッカーのワールドカップの報道で盛り上がっています。今こそ日本チームはワールドカップ出場常連国になり、優勝経験のある強豪国がひしめく予選グループでも堂々と試合を進める姿に、多くの人が勇気をもらい、また、声援を送っています。

しかしながら、ワールドカップ参加の歴史は浅く、初出場は1998年フランス大会、それまでは、どうしても予選を突破できず1993年のJリーグ発足以前は、国内の代表戦も空席の多いとてもマイナーな状況でした。

Jリーグが発足し、「ワールドカップ出場」を目的に様々な面での整備が行われるとともに、この時期からある言葉が広まったのを覚えています。「選手」をはじめとした「監督・コーチ」「審判」などサッカーに携わる者の中で広まったのは「育成」という言葉でした。さらに「リスペクト(尊重)」という言葉です。

当時のスポーツ界では「指導」という言葉が一般的でした。しかし、いくら「指導」しても限界がある。一方的な指導で才能を潰されてしまうこともある。広く「育成」する中で自主的に考えて「チャレンジ」できる選手を多く育てることが大切で、さらにそこで出会う仲間を「リスペクト(尊重)」しあうことが大切だとなったと記憶しています。特にサッカーというスポーツは一瞬一瞬の選手の判断と仲間との連携が何より重要でこれが必要だったのだと思います。

さて、スポーツの世界では「育成」中心となってきましたが、学校教育はどうでしょう。学校でも特に小学校段階ではもともと教育の「育」に力点があると感じていましたが、社会の変化とともに、「主体的な学び」という言葉が入ってきてから特に顕著になり、「チョークとトークとジョークで通用する時代は終わった」という言葉を昔の先輩方が話していたのを覚えています。先生は「話を聞かせる」のではなく、「話を聞こうとする子を根気よく育てる」ということになります。これは簡単そうで、とても難しく、根気と時間、目的を持って多くの方が協力して行う必要があります。今、学校では「主体的に学ぼうとする児童の姿」を大切にして教育実践を進めています。児童を中心として地域、保護者、先生が協力しながら児童の成長を目的に根気強く育てていく姿が必要だと考えます。

このことが形となり多くの人の喜びの一つになっているのが今のサッカー日本代表の姿かもしれません。

校長

【お願い】

6年修学旅行11月27日(日)28日(月)5年宿泊移動教室11月29日(火)30日(水)と宿泊行事が行われています。その中で6年生の日曜日代休のために特に明日の29日(火)は、登校班から5・6年生が不在の状況となります。可能な方の登校見守りを再度お願いいたします。

気が伝わってきます。しかも、最初はぶら下がったり、飛び乗ったりといった遊び方から、「逆上がり」や「前回り」「足掛け回り」などの「技」に取り組む子が増え、さらに、今では、足を振ったり鉄棒から体を浮かせたりと体の反動をつけた「連続逆上がり」「連続前回り」「連続の足掛け回り」など、グルグルと何回も回転をして楽しむ姿が多くなりました。大人目にも「おお、すごい」と思う技の持ち主もいます。

鉄棒の場所が児童の動線に合っていたことで、自然に触れるようになったこと、誰かが楽しそうにしている姿に多くの子が集まる雰囲気ができることが要因ではないかと考えました。

これをケーススタディとして、今年度は自然に体を動かす「しかけ」が他にも作れないかと先生方と考えています。ラミネート作品の「ジャンプタッチ」や「ケンケンパコート」など少しずつ児童が楽しみながら効果的に「体力づくり」ができる「しかけ」を用意したいと考えております。

さて、コロナウイルス感染の厳しい状況が続く中、新学期を迎えます。暑さもしばらく厳しい状況です。学校では引き続き熱中症対策とともに感染対策を行いながら過ごしてまいります。ご家庭での健康観察のご協力により、登校を維持するために元気を確認の上の登校にご協力をお願いいたします。

校長

.....
【ご報告とお願い】